

くまゆき

農林水産省登録認定機関・特定非営利活動法人(NPO) 熊本県有機農業研究会 発行
〒861-8028 熊本市新南部2丁目5-13 Tel096-223-6771/Fax096-223-6772 振替:01980-7-18438

2012/04 春号

39号

通刊76号

<http://www.kumayuken.org/>
✉ info@kumayuken.org

- ※ ゆうきフェスタ2011報告
- ※ 九州山口有機農業の祭典報告
- ※ 各部会の活動
- ※ オーガニック食クエスト
【キッチン野菜のころろ】
- ※ 総会報告ほか
事務局からのお知らせ



鮮やかな緑色とみずみずしい食感が特長です。さや〇〇〇〇、スナック〇〇〇〇など豊富な種類で春の食卓を彩ります。

【絵：小川美弥子】

連載企画！

種*花クイズ

Q.右の写真は何の野菜の花でしょう？

※正解者の中から抽選で3組(計6名様)に、有機食材を使ったレストラン等で使える約1000円相当のチケットをプレゼントいたします。こたえがわかった方はぜひご応募下さい。

※応募先やチケット利用可能店など、詳しくは8面へGO！

種はこんな姿です→
(出典：ウィキペディア)



身土不二

山都町有機農業協議会 副会長
熊有研理事 坂本幸誠

お米の産直を始めて24年目となります。当初は自主流通米と政府米の2種類しかお米の流通は無く、特別栽培米として消費者と直接取引ができる流通が出来た時代でした。消費者の連絡先や年間のお米の購入予定数量を食糧事務所に届出し、その消費者に食糧事務所から電話確認をして特別栽培米の許可が下りるといふ、今では考えられない制度でした。直接取引を始めて感動したのが、食べていただける人がわかり食べた感想が聞けること。農家にとって一番の喜びを流通によって取り返した気がしました。

そして牛肉、豚肉の産直に繋がっていききました。昨年は牛肉と豚肉を使っていたにいたっている、辛島町にある「リストランテ ミヤモト」さんが九州では初めて料理マスターズで入賞されました。ミヤモトさんを中心として設立された「アルチザンクラブ」では、熊本の食材を熊本のレストランで、生産者の紹介、栽培のこだわりなど説明を交えながらお客さんに食べていただき、地元の食材を楽しんでいただきたいと思っています。

今では、レストランが5件となり、消費者直接との流通とはまた違う楽しみとなっています。ミヤモトさんの店に行きますと、お客さんに「こちらがあか牛の生産者の坂本さんです」と紹介していただきます。「いつも美味しく頂かせていただいております」と丁寧な言葉をかけてもらっています。少し照れながらミヤモトさんを見ると、いい顔で笑っておられます。あか牛で驚いたのですが、焼き方で味が変わること、硬さも違ってきます。熟成の度合いによっても、確かに肉が変わってきます。牛を健康に育てるだけでは消費者には伝わらず、焼き方、調理の仕方なども、その肉を美味しく食べていただくために必要なことだと思っています。

《しんごふじ》…身体は土と離れてはあり得ないといふこと。
農業を営むひとたちにとって大切なキーワードとなっています。



チャリティセールやエコ食器ブースなどに設置した募金箱にてお寄せいただいた募金総額52,560円は、福島県有機農業ネットワークへ寄付いたしました。脱原発署名335名分は、協力いただいた「平和憲法を活かす熊本県民の会」を通し、「さよなら原発1,000万人アクション」実行委員会に



2011年11月20日(日) 熊本県農業公園カントリーパークで開催！ ゆうきフェスタ2011

― 見つめ直そう私たちの暮らし ―

毎年恒例の「ゆうきフェスタ」も、今回で12回目となりました。生産者・消費者が一緒に収穫を喜び合い、有機農業や有機農産物を身近に感じてもらうこと、より多くの方に知ってもらうこと、環境・健康・教育・地域作り等に関心のある方々との交流の場となること、そして「いのちの循環」を考える場を提供することを目指して、開催してきました。

さらに今回は、東日本大震災そして原発事故を体験した直後の開催です。テーマを「見つめ直そう、私たちの暮らし」に決め、被災した有機農家を招いた企画やチャリティ企画も盛り込んで、少しでも力となるようにとの思いを込めて、全員の力で作り上げました。

未来のために、耕していくこと

ステージでの講演会は、福島県の有機農家・菅野正寿さん（福島県有機農業ネットワーク代表）に「次代のために今を耕す、資源循環型農業と脱原発社会を」と題し、実際の体験や現

状、これからの取組みについてなどをお話いただきました。

土壌の肥沃度が高いほど、作物が根から吸収する放射性物質の量を少なくできるとの研究結果もあり、有機農業という形で長年にわたり耕し積み重ねてきた豊かな農地こそが、未来に希望を見出すひとすじの光となっているそうです。甚大な被害と苦しい状況のなかでも、懸命に農地の力を信じ行動し続けることを語られ、素朴な人柄のにじみ出る話しぶりも手伝って、多くの方が真剣に耳を傾けていました。

講演会後の対話集会「見つめ直そう私たちの暮らし」では、菅野さんに引き続きステージに残っていたき、客席との対話形式で意見を交わしました。東日本から避難してきた方、避難者を受入れた方、熊本で暮らし続けている方などの様々な立場や状況を知り、今の自分にできることは何か、これからどう暮らしていくのか、それだけに考えをめぐらせる対話集会となりました。



大盛況となった当日の様子をご報告します。また、菅野正寿さん講演会の様子は、熊有研HP上のフェスタ特設ページでご覧いただけます。（ご協力・くまもとインターネット市民塾）

初めての会場と新しい出会い

より開かれたフェスタを目指した「出会いやきっかけ作り」というこの2年間のキーワードの幅を広げようと、新たな出展者へも声かけをし、過去最大となる87団体の参加いただきました。昨年の倍ほど数となり、広い会場でも賑やかなお祭りとなりました。

心配した天気も何とか回復し、駐車場確保のため会場を移した農業公園は4000名強の来場者で賑わいました。雑貨屋やワークショップも充実したからか、30代をピークに家族連れや若い女性の姿も目立ち、芝生広場には子どもたちの歓声が響きました。

次回フェスタに向けては、環境配慮型のお祭りとしてのスキルアップ、そして有機農業や有機農産物のアピールにもっと力を入れることを課題として、準備をすすめていきます。また次回も、どうぞよろしくお願いたします！

ステージでは、力強い太鼓演奏や農家をテーマにしたミュージカルの披露、歌手の飛び入り参加も！終盤の川原一紗さんのコンサートでは、透明感のある歌声が優しく響き渡り、来場者、出展者、実行委メンバーなど会場に集った多くが、それぞれにとってのフェスタを満喫しながら耳を傾





出展者一覧

過去最大の87団体に出演いただきました！（順不同）
おかげさまで賑やかなお祭りとなり、本当におつかれさまでした。
これからもよろしくお願いします！

アンデス物産
宇城市有機農業推進協議会
一般社団法人クリーン帯山
（財）自然農法国際研究開発センター
くまもと有機農業推進ネットワーク
（社）農文協九州沖縄支部
人吉市有機農業推進協議会
雑貨bb. チアフル2nd コラボ店
堀内油屋
松合食品（株）
山都町有機農業協議会
株式会社マルタ
株式会社れんげ・カンパニー
アンテナコミュニー あんよ
青砥さんちの野菜畑
エコライフこうし21
株式会社 果実堂
Cafe 3
Kei's-factory
tonttu
ごはん屋うってー
ベジ食堂 そらの実
季節の酵母パン
Dahliaとtomo.とBarbedwire
ちくりの恵
野うさぎ市
フェアトレードシティくまもと推進委員会
まるは油脂化学株式会社
自家製天然酵母 むぎのたね
麦の穂
茶房うさぎ
平山楽彩農園
野菜処藤本
MOA自然農法 熊本県連合会
吉井牧場直営工場(有)シリカファームしすい
畑まるごとマーケット「有機生活」
玄米菜食dining旬
マクロビオティックごはん・スウィーツ リンネ
熊本県愛農会野菜部
生活協同組合 熊本いのちと土を考える会
&グリーンファーム熊本
olmo coppia
「九州の食卓」

（有）くまもと有機の会
GREEN NOTE
ココベリ
くまもと産直クラブ
秀明自然農法ネットワーク
NPO生活と教育
健康農園 堤公博
肥後のたまもの 東海大学学生農家応援部
（有）つのだ青果
Tien Tien
屋台かふえ とうから家。
BIO SALUTE・田園キッチン・みゆきの里
百草園・千草舎と万菜村
POPCOFFEES
yogastudio+ごはん manaworks
天然酵母のパン屋March
NooPaa Market
株式会社 緑の資産
山都地域バイオ燃料協議会
木もれ陽キッチンRipple
野菜ソムリエの会 熊本
子育て世代の健康住宅専門店ファミリアホーム
中重企業（株）九州支社
アリスライフサイエンス株式会社
熊本県厚生農業協同組合連合会
株式会社 花の海
NPO法人スローライフミルクネット
ぎんなん太鼓
九州農政局
くまもとグリーン農業推進本部
合志市
矢部高校生活園芸部
くまもと清陵高等学校
新規就農者ネットワーク
ミュージカルY
エコ村伝承館
国際竹とんぼ協会
肥後ちゃんかけごま保存会
東海大学農法研究部
熊有研 広報部、種苗部、食農教育部、青年部、菜の花プロジェクト、生ごみ循環プロジェクト



熊有研食農教育部主催のこんにゃく作り教室。知恵の詰まった作り方を体験して、見慣れない芋からおなじみのこんにゃくができていく様子に、こどもから大人まで興味津々。できたてほかほかの味も格別でした。

菊池の堤公博さんを講師に、米粉ピザ作り教室を開催しました。県産米粉配合の生地に、こだわり食材の具でオリジナルのトッピング。堤さん持参の釜で焼いたあつあつの米粉ピザに、おなかもちも大満足！



前回に続き熊有研青年部担当で開催した、ロアッソ熊本コーチによる親子サッカー教室。体の使い方、ボールの扱い方の練習やゲーム形式の練習などいろいろな方法を教えていただき、元気いっぱいの笑顔が広がりました。

熊本県新規就農支援センターにも協力いただき、熊有研青年部と並んで「新規就農相談コーナー」を設けました。これから有機農業をやりたいという方が多く訪れ、有機農業への関心の高さがうかがえました。



◆主催 ゆうぎフェスタ2011実行委員会（内田敏介委員長、安藤光一副委員長）

◆共催 くまもと有機農業推進ネットワーク

◆協賛（有）内田安喜商店、olmo coppia、（株）果実堂、季節の酵母パン、生活協同組合 熊本いのちと土を考える会、熊本県農業協同組合中央会、（有）くまもと有機の会、健康農園 堤公博、秀明自然農法ネットワーク、医療法人社団寿量会 熊本機能病院、大東肥料（株）、（有）つのだ青果、株式会社ティア、中重企業株式会社、（社）農山漁村文化協会 九州・沖縄支部、畑まるごとマーケット「有機生活」、医療法人博光会 社会福祉法人健成会 みゆきの里、（株）原田アイガモ孵化場、人吉市有機農業推進協議会、子育て世代の健康住宅専門店 ファミリアホーム、堀内油屋、松合食品株式会社、（株）マルタグループ、山都地域バイオ燃料協議会、山都町有機農業協議会、（株）れんげ・カンパニー
◆後援 財団法人熊本県農業公社、九州農政局、熊本県、熊本市、合志市、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、合志市教育委員会、菊陽町教育委員会、熊本県農業協同組合中央会、熊本日日新聞社、NHK熊本放送局、KAB、KKT、RKK、TKU、FMK



第19回 火の国 九州・山口有機農業の祭典 in くまもと

～どぎゃんすっと?! 「いのち」と「有機農業」～

毎年各県持ち回りで開催される「九州・山口の有機農業の祭典」。今回は 3.11 の震災と原発事故を踏まえ暮らしや有機農業のあり方を考え、いのちや健康、地域の再生について話し合いました。(参加者 364 名)

《基調講演》～^{つちだ たかし} 槌田 劭先生、^{ほし かんじ} 星 寛治先生の講演会 ～ 祭典実行委員長 荒毛正浩

昨年の東日本大震災、東京電力福島第一原発事故による放射能汚染、そしてこれからの有機農業など現場の問題を深く掘り起こし、議論を交わし、どう行動を起こしていくかという大変密度の濃い集会となりました。

日有研40周年記念行事の一環として開催した今回の基調講演は、元京都大学工学部助教授の槌田劭先生と山形県在住の星寛治先生のお二人の方にお願ひしました。槌田先生は以前から原子力発電の危険性を訴えられている方で、今回は「文明社会の罪と私たちの未来」というテーマで講演いただきました。有機農業は多様な生物の

槌田
劭先生



共生によって安定する生態系を田畑に実現する、いのちの機能に依存する農業であり、有機農業こそが真に持続的な最良のエネルギー産業と述べられ、有機農業を推進している私たちにとって元気の出る貴重な講演でした。

次に講演いただいた星寛治先生は、ご存知のとおり、今から40年前から有機農業に取り組まれてきた方で、まさに日本の有機農業の草分け的存在の方です。昨年の東日本大震災の被害に直面し、その後どうやって生き抜くかや、原発事故が明らかな人災（文明災）であったこと、放射能汚染された大地を有機農業でいかに復興していくかなど切々と語られ、大変共感しました。



星
寛治先生

《パネルディスカッション》～どぎゃんすっと?! 「いのち」と「有機農業」～ パネルディスカッション コーディネーター 内田敬介

神谷氏は「原発は嘘で固められている。放射線は生殖細胞を破壊するなど全生物にとって毒である」、須藤氏は「新規就農しやっと定着出来たと思ったら原発事故で中断せざるを得なくなった。一時は別の土地で就農しようと思ったが、世話になってきた福島に残りやっていたい」、草野氏は「富士山麓でカフェをやっていたが、妻子を守る父親として熊本に移住を決めた」、三浦氏は「上関原発反対運動に取り組む祝島の闘いを支援してきた。500 人足らずの小さな島だが、自然が豊かで農漁業が盛ん。豊かさとは金ではない」、宮北氏は「水俣病事件の教訓は活かされたのか。水俣病事件はまだ終わっていない。国策企業(国が主犯、チッソが実行犯)、科学技術への過信、自然の一部としての人間生活が忘れられていることが共通点」などと発言された。

会場からは「福島県以外の汚染状況はどうか」、「ガレキをどう処理したらよいのか」、「原発事故の責任の所在を明らかにすべきだ」といった質問や意見が出された。

原発の危険性は子孫にわたる「いのちの危機」であることを痛感し、足尾鉍毒事件、ヒロシマ・ナガサキ原爆、水俣病事件を学び直し教訓として活かしていく必要性を感じた。そして、有機農業運動が目指す、土といのちと暮らしを一体のものとして捉え、それらを大切にしたい社会の創造、生産者と消費者とが支えあう「提携」の関係性が今こそ必要である。「いのち」の視点で、脱原発運動と有機農業運動は重なる。両運動を「世直し」として私たちは行動をおこす歴史的使命を持っていることを確認した。



＜パネラー＞神谷杖治氏（放射線分野）、須藤陽子（福島の有機新規就農者）、草野育史郎氏（料理人、静岡県から熊本県へ移住）、三浦翠氏（上関原発反対運動）、宮北隆志氏（環境分野・水俣病研究）

《種苗交換会》～九州・山口有機祭典を終えて～ 種苗部・徳田勇次

参加者 80 名以上、出品自家採集の種、軽く 100 種類以上と交換も 1 時間と短時間の為に、何かちがっていると一言意見を言う人が増えてきました。例えば、参加者を見渡してみれば、常連が7割、新人が2割、私も入れるかなと参加したいという人が1割、だが交換会が故に知らない種、わからない種、いつ頃播けばいいですか、収穫はどうやって!と私は時間がないのでどんどん先へ行きます。すると、私の耳元にざわざわと入ってくる話、なんども私語は休めてくださいと言ったことを思い出します。

種の取り方の方法、野菜の育て方もわからないことも沢山あります。それはそれとして、別に勉強会をやらないうけない。けど、九州・山口という大きな大会だから、情報が飛び交う、種苗交換会を楽しみにしている人もいるだろう。そんなことを考えると、分科会の中に1会だけ、種苗交流勉強会を入れることと決めてけば、有機農業大会にふさわしいのではないかと思いますので、提案します。そして九州各地の素晴らしい在来種が産まれてくることを待ち望んでいます。



《懇親会》熊本の有機食材をふんだんに使用したビュッフェ方式で、各県のお酒等も持ち込まれ、大変盛況に終わりました。

ご希望の方には、講演の様子、懇親会、分科会等の映像や写真をお送りすることができますのでご興味がある方は、熊有研事務局までお問合せください（必要経費のご負担をお願いいたします）。

分科会報告

祭典2日目に行われた各分科会の様子をまとめて報告します



第1分科会【有機農業の参入と行政との連携】 座長・報告：荒毛正浩

有機農業者、行政関係者、消費者など計 45 名が集まり、福島市の新規就農者・須藤陽子さんのこれまでの経験や、熊本県内各地域の事例の発表を行いました。

須藤さんには、非農家ながら有機農家になることを決意したことや、独立し軌道に乗るまでの苦労についてお話いただき、その後の質疑応答では、福島市の新規就農助成金や制度資金を活用するほか農業委員会で遊休農地のあっせんを受けたこと、販路や価格設定、経営方法についてなど、多くの質問に答えていただきました。若き女性農業者、須藤さんの実績は、参加者にとって大いに参考になったと思われます。

各地域の事例発表では、有機農業参入促進への取組みとして、熊有研の新規就農者養成塾と、くまもと有機農業推進ネットワークにおける取組みについて報告いただきました。また、行政における有機農業への取組みとしては、人吉市と宇城市の事例について発表され、参加者からの意見発表も交えながら時間ぎりぎりまで熱心に論議を深めました。

第2分科会【とことん語るばい若者部会】 座長・報告：安藤光一

「とことん語るばい、若者部会」では、若手の生産者、これから農業を始めよう、又は始めたばかりという新規就農者、関東から移住してきた人、ベテランの農家さんや流通の人などなど、それぞれの人達が、これから農業をしていく若い人達がどうすれば持続的に、意欲的に農業を続けていけるかというようなテーマで意見を交わしました。持続していくことの厳しい現実と、そんな中でも「若けえものの会」を立ち上げて、活動している鹿児島から報告をしていただきました。今年は熊本で「九州山口若けえものの集い」の開催を夏ごろ予定しています。是非ご参加下さい。



第3分科会【いのちを守る食生活】 座長：市来眞 / 報告：福山曉三

食育活動の報告を頂き、参加者が「あっ！これ良いな！」と感じて、各県に帰ってからの食育に活用して頂くことを目的としました。合わせて、樋田先生からのご意見も頂きました。



熊本・青木さん：EM利用の生ごみ堆肥化の勉強会や食育の勉強会等月1回程度実施。対象は子育て中のお母さん達。旬の物を食べる。冬の物は体を温める。夏の物は体を冷やす。長崎・イセキさん：食育祭を開催。提携を軸にスローフードや昔の大切な食文化を守っていく活動を行っている。熊本・森田さん：野菜ソムリエの資格を取得し学校給食の食育活動に参加。食べ合わせの勉強会等開催。熊本・和田さん：伝統料理やこんにやく作りを教えている。物を買わない生活（自給自足）は一つの収入ということを教えたい。福岡・古野さん：玄米菜食だが、震災後何をどう食べたら良いのか不安。二本松の大石さんの話を紹介。震災の後、多くの野菜の種をまく。きゅうりは1桁、そばは高く、きのこは万のベクレル。もっと情報を得て野菜を作り食べていきたい。鹿児島・園山さん：33年間自律神経失調症。土が健康になると百姓も健康になる事を33年かかって判って来た。67歳で人生のピークを感じている。熊本・西さん：農業指導、適季適作、健康作物を集める取組み。耕作放棄地の活用、裏作の栽培等。熊本・井ノ口さん：若いお母さん対象の食育と子育て。玄米料理教室開催。圧力を掛けない鍋炊きの玄米、砂糖を使わないおやつ等好評。

第4分科会【原発問題とこれからの有機農業】 座長：古荘洋子 / 報告：竹熊千榮子

テーマが重いせいか、緊張感がある会場でした。神谷杖治先生がスライドを通して、主に原発の構造や発電の仕組み、電気料金の算出が会社側に有利な方法となっている事等話されました。初めて耳にする内容は難しく驚きの連続でした。

印象に残ったことは、①原発事故は津波でなく地震が原因だった。②原発は核武装が究極の目的である。使用済み燃料を処理して取り出したプルトニウムから核兵器をつくる図式。現在6基分あるとの事。③内部被爆は大人の10倍子供に蓄積する（体重が小さいため）。会場からの発言で、原発は反対だとは言にくい雰囲気。星寛治さんは「有機農業は原発とは共存できないのだから、信念を持って働きかけるしかないでしょう」とコメントされました。

カナダ在住の長女から電話があり、カナダにも放射能が流れてきたそうです。地球上に迷惑をかけたこの事故に限りない恐怖を感じました。



第5分科会【インターネットと有機農業】 座長・報告：菊池泰宏

九州山口有機農業の祭典2日目の第5分科会「有機農業とインターネット」を行いました。今回は初めてワークショップ形式で2部構成で行いましたが、最初は菊池市・渡辺商店の渡辺義文さんによる、「インターネットショップでの野菜の販売」について。次に座長からインターネット上で交流や情報交換を行う「フェイスブックの活用」についてのワークショップを行いました。

特に、渡辺さんは経験や実例を元にお話をされ、実績もきちんと上げられているので、皆さん真剣にお話を聞かれました。またその後の質問も多くてその関心の高さがうかがえました。



部会活動報告 ～ 今年の活動計画 ～



- ① 「若えものの集い」を熊本にて開催
- ② 有機農業研修（圃場視察）
- ③ ゆうきフェスタ参加を予定。

《青年部》



- ① 5月9日圃場見学及び写真撮影
- ② 8月22日部会員宅圃場見学会
- ③ 11月下旬 ゆうきフェスタ / 自家採種種の展示

《種苗部》

《食農育部》

野菜やコメの大切さを再認識し、健康を育む先人の知恵や伝承を学ぶ企画、これまでの30年間の取り組みを振り返る企画を予定しています。

- ① 5月末：五家荘焼畑ツアー
- ② 7月末：親子野菜料理教室
- ③ 11月：フェスタ参加
- ④ 2013年1月：味噌作り講座



《菜の花プロジェクト》

- ① 浮羽朝倉地域協議会への先進地を山都地域バイオマス協議会と共同で行う
- ② 菜の花栽培からBDF回収まで、山都町の取り組み事例として学習会を実施
- ③ 地域での活動（菜の花栽培や廃食油の回収、BDFの使用）
- ④ 菜の花プロジェクトホームページ管理

メンバー紹介 堀内製油

私たち堀内製油は、草原を開墾して菜種を植えるプロジェクトを実施しています。初年度はその標高の高さゆえに全体の6割が早霜の被害を受けました。そうした苦労もありましたが、回を重ねて、ようやく菜の花が高原一面を鮮やかな黄色に染めるようになりました。

「お客様に安心・安全な商品を提供するために、原料から自分達で作ろう」と始めた自社農場でのなたねの栽培。毎年春にはなたねの収穫を行い、一部は当店の商品「地あぶら」として出荷します。何分、農業は素人なので思い通りにいかないことも多々ありますが、これからも無農薬栽培にこだわり、堀内精油さんの理想とする“循環型生産体制”の確立を目指し一歩ずつ頑張ります。

- ① 熊本市からの依頼による公民館での熊本市主催ダンボールコンポスト講座講師。
- ② 熊本市内の全学校に配布されている環境教育の冊子（熊本市温暖化防止活動推進センター発行）に講座登録をしたので、申し込みがあれば講師を派遣する。
- ③ 熊有研の会員からダンボールコンポストの説明会を開いて欲しいという要望があれば、基材費のみで講師を派遣する。（5回限定）
- ④ 生ごみ堆肥作りを単なるごみ減量でなく、いのちの循環ということで提唱していることもあり、作物をつくり、料理などにもメンバーに無理のない範囲でチャレンジする。

《生ごみ循環プロジェクト》



【部員募集中です！】

【連絡先】TEL：096-223-6771 熊有研事務局まで！
URL：<http://www.kumayuken.org/> MAIL：info@kumayuken.org

熊本県有機農業研究会には様々な部会があります。青年部、種苗部、食農育部、広報部、菜の花プロジェクト、生ごみ循環プロジェクトと、農業・食育・環境など地域に根ざした活動を行なっています。そのような活動に興味がある方、私たちと一緒にこれらの活動に参加してみませんか？

現在、各部会部員を募集中ですので、興味がある方は上記の連絡先までお気軽にご連絡ください。

第12回 通常総会報告

2月18日(土)、県立大学小ホールにて第12回通常総会を開催し、2011年度事業活動報告及び決算、2012年度計画及び予算を審議、承認しました。役員については改選年次ではないため、現体制継承のうえ、坂本幸誠理事(出身母体/山都町有機農業協議会)の就任を確認しました。質疑応答では、技術部会の再開を求める声上がり、新規就農者に届けるためにも、技術交流やその蓄積の必要性が訴えられ、理事会で検討していくこととなりました。また、23年度に開始した「養成塾事業」継続のため、「有機農業新規就農者育成支援基金」を立ち上げ、会員の応援(寄付)を募っていくことを報告し、協力を求めました。さらに、有機JAS登録認定機関が準拠すべき国際規格の変更(ガイド65からISO17065へ/7月発行予定)に向け、急ぎ対応を協議していく必要があることを報告しました。



また、23年度に開始した「養成塾事業」継続のため、「有機農業新規就農者育成支援基金」を立ち上げ、会員の応援(寄付)を募っていくことを報告し、協力を求めました。さらに、有機JAS登録認定機関が準拠すべき国際規格の変更(ガイド65からISO17065へ/7月発行予定)に向け、急ぎ対応を協議していく必要があることを報告しました。

映画「暴走する生命」の上映会を開催しました

第12回総会前に遺伝子組み換えを問うドキュメンタリー映画「暴走する生命」が上映されました。

この映画は「生命よりお金」を優先する「遺伝子組み換え技術」に疑問を呈したドキュメンタリーでした。現在、現実的に起こっている遺伝子組み換え作物の拡散。すでに世界中で販売されていますが、例えば、野生種を絶滅させる凶暴なGM魚や、インドでは高額なGM種子を借金で買った農民が借金を返せなくなり、1997年から2010年までの農民の自殺者は22万人に上っているなどそれらの多くは一般的には知られていません。

またその反面、そのような商品(製品)の導入を推し進めるモンサントなどの多国籍企業と闘う人たちやその取り組みも紹介されました。

現在、フランスでモンサント社に対して訴訟を起こし、勝訴した事例もあるように、今後も継続して私達は「遺伝子組換え種子」の動向に注視しないといけないと思います。(広報部:菊池泰宏)



【参考URL】

- ・暴走する生命: <http://www.bekkoame.ne.jp/ha/kook/liferunning.html>
- ・安田節子の遺伝子組み換え食品FAQ: <http://www.yasudasettsuko.com/gmo/faq.htm#23>
- ・厚生労働省・遺伝子組み換え食品:
http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/identshi/index.html



by 広報部



D
A
T
A

●キッチン野菜のころろ
熊本市佐土原2-4-20
(畑まるごとマーケット有機生活 内)
TEL: 096-365-6520

畑まるごとマーケット有機生活 内

キッチン野菜のころろ 一心と体にうれしいお弁当

「仕事が長引いて夕食が遅くなった〜!でも何か食べたい…」というあなた!カップラーメンに手を伸ばす前に、こちらはいかがですか? オススメは「キッチン野菜のころろ」の「酵素玄米弁当」。2011年にオープンした佐土原の農産物直売所「有機生活」内の店舗というロケーションからも、素材の質は言わずもがなですね。

気になるお味は?と言いますと、「肉、魚、卵、砂糖を使わず…」と、いわゆる精進料理の落ち着いた味が基調になっています。とはいえ、一品一品が丁寧に調理されており、上品な量でありながら満たされる内容です。一例として、夏豆団子のくずあんかけなどは、優しい味でおかわりしたくなる美味しさでした。

日替わり弁当なので、旬の野菜の「今食べて!」という気持ちを受け止め、味わってみてください。休み時間の一時に、家事の合間のリフレッシュに、体はもちろん心も元気になる滋養食をどうぞ!

〈広報部・松本恵美 記〉

◆1～3月活動報告◆

- 1/14(土) ゆうきフェスタ2011反省会
 1/23(月) 審査員研修会議
 1/28(土) 火の国九州・山口
 有機農業の祭典実行委員会
 1/28(土) 第7回理事会
 2/4-2/5 第19回火の国九州・山口
 有機農業の祭典(阿蘇市)
 2/9(木) 養成塾集合セミナー
 2/12(日) 第1回判定委員会
 2/18(土) 第12回通常総会(熊本市)
 2/18(土) 火の国九州山口有機農業の祭典反省会
 2/29(水) 有機JAS講習会(熊本市)
 3/9-3/10 養成塾集合セミナー
 3/16(金) 養成塾受入農家説明会
 3/21-3/22 審査員判定委員合同研修会
 3/24(土) 養成塾修了式
 3/24(土) 第1回理事会
 3/25(日) 第2回判定委員会

○●今後の予定●○

- 4/18(水) ゆうきフェスタ2012第1回実行委員会
 4/27(金) 有機JAS講習会
 5/6(日) 第3回判定委員会
 6/2(土) 第2回理事会

有機JAS規格が変わりました!

2012年
3月28日に告示、
4月27日に施行
です!

【有機農産物規格の見直しのポイント】

★種子又は苗について、具体的に厳格化。

- ①原則は有機の種・苗。
有機種苗の入手が困難な場合や品種の維持更新に必要な場合に限り、
- ②使用禁止資材を使用せずに生産された種・苗
- ③種子繁殖の品種：種子、栄養繁殖の品種：入手可能な最も若齢の苗
- ④その他の種・苗（①～③が入手困難かつ、災害・病害虫等により植付けの種苗がない場合や種子供給がない場合限定）

という順で選ぶ必要があります。

*条件（どのような種苗でも例外なし!）

は種・植付け後に持続的に効果を示す化学肥料及び農薬が使用されていないこと。遺伝子組換え技術を用いていないこと。

★肥料・農薬などについて検討の上、放線菌由来の農薬などが追加。

★きのこについては、分けて整理。また、別表の番号も変更。

【有機加工食品規格の見直しのポイント】

◆95%以外の原料について「有機原料が十分な量の確保が困難な場合」という条件追加。

◆乳酸、炭酸カリウム等要望のあった食品添加物について検討し追加。

◆商品名の表示されている箇所に近接した箇所に「転換期間中」と記載する場合、一括表示の名称及び当該原材料名の前又は後の「転換期間中」の記載は省略可能に。

「あなたと健康」主幹、自然食・自然療法研究家として知られる東城百合子先生の講演会が開かれます。
 こどもたちの身体と心を育て、幸せに過ごす暮らしとは？ 私たちは、何を食べ、どのような心をもって生活していけば良いのか？ 原点に返って考えてみましょう。
 熊有研食農育部が後援しています。
 ●4月26日(木) 午後1～4時
 ●熊本市国際交流会館7階
 ●入場無料
 ●主催・問合せ までしこの会(中小路) 080・1777・1448

基金へのご協力をお願いいたします
 有機農業の新規就農者支援事業として2011年より開始した「養成塾事業」。今年はその継続のために、「有機農業新規就農者育成支援基金」を立ち上げます。
 会員のみなさまの応援(寄付)を募り、これから有機農業で就農しようという方のために役立てていきます。
 みなさまのご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。
 (詳しくは、別紙ご案内をご覧ください)

今回の「会報ゆうき」は「ゆうきフェスタ2011」、「九州・山口有機農業の祭典」、「第12回通常総会」など、お知らせすることが多すぎて、寄稿者も錚々たる方々ばかりで、ここはどうしようか？ ああしうか？とタイトなスケジュールの中、編集いたしました。
 3・11の東日本大震災から1年が過ぎましたが、あの日を境に世の中や時代の流れが



このタイトルは、熊有研会報第1号から使われていたものを縮小したものです。

急に変わってきました。私たちは東日本大震災の事を忘れずに、時代の変化に上手に対応し、熊本有機農業に関することを深く・幅広く発信できるように更なる努力をしていきたいです。
 また、遺伝子組み換え問題、食農育、環境問題などと社会に対する熊有研の役割は非常に大きいと思います。今後は熊有研の顔でもある「ゆうき」をどのように充実させるか、どのように伝えていくか、じっくり話し合い、時代の流れを変化を誌面づくりに反映させていきたいと思っております。今後も「ゆうき」をよろしくお願

※種*花クイズ 応募方法※

表紙のクイズの答え・住所・氏名・電話番号・ゆうきの感想をお書き添えの上、郵送がFAXまたはメールにて、下記宛先までご応募下さい。

●問合せ・応募先

〒861-8028 熊本市新南部2丁目5-1 3
 FAX:096-223-6772 MAIL:info@kumayuken.org
 熊有研広報部 種花クイズプレゼント係 宛

※チケット利用可能店※ 順不同、3月現在>

- | | |
|-------------------|------------------|
| *エヴァダイニング(福岡市) | *ビストロシェルコパン(山鹿市) |
| *レストラン大河(益城町) | *ちゃぶ台(玉名市) |
| *泉力の湯(西原村) | *風流(西原村) |
| *カフェテラス野の花(黒髪) | *キッチン太郎(子飼) |
| *プライベートロッジ(並木坂) | *ピオサルーテ(駕町通) |
| *土に命と愛ありてティア(本山町) | *オルモ・コッピア(阿蘇市) |

※前回のこたえは「みょうが」でした。